

## 【研究のまとめ】

## ～ ひかり探Qプロジェクト～

### 「つくりたい！遊ばせたい！光市子ども公園！！」

山口県立光高等学校 2年

長富 世奈・神代 悠

「やまぐち探究サミット」Day2（会場：山口県セミナーパーク）参加・発表より

#### 1 子どもの遊べる場所とは

私たちは、高校1年生の頃から探究に興味をもち、光市のことを考えながら探究を進めてきました。そんな私たちが考えたプロジェクト名は、「つくりたい！遊ばせたい！光市子ども公園！！」です。なぜこのようなプロジェクト名にしたかという、わたしたち二人ともが子どもが好きであり、子育てに関心があったからです。そこで私たちが考えたテーマは「子どもたちの遊べる場所」についてです。光市のみなさんに親子で住みやすいと思ってもらえる街となれば、子育てがしやすく、子どもが思いっきり遊べると考えました。



#### 2 「おっばいまつり」で探Qオリジナル質問

最初に、光市役所「あいぱ一く」子ども家庭課の方に「おっばいまつり」についてお話を聞きました。「おっばいまつり」とは、光市の「おっばい都市宣言」の理念を市内外に広め、まちぐるみで子育てを応援する環境について考える機会として開催している光市独自のイベントです。

お聞きした内容は、

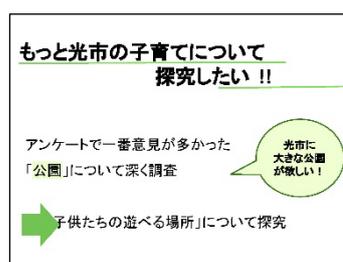
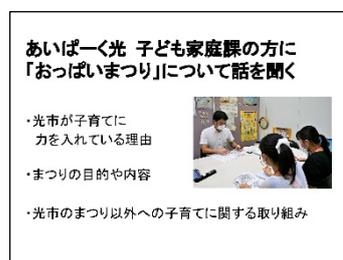
○光市が子育てに力を入れている理由

○まつりの目的や内容

○光市のその他子育てに関する取組、などです。

その後、「おっばいまつり 2023」にボランティアとして実際に参加し、私たちは来場者アンケート係を担当しました。そして、そのアンケートに「ひかり探Qプロジェクト」オリジナル質問を付け加えることが可能だったので、光市の子育てについて質問をしました。

アンケート結果をもとに、私たちは、もっと光市の子育てについて探究したい！と思いました。アンケートで一番多かった意見は、「光市に大きな公園がほしい！」でした。このことから、私たちは「公園」について深く調査しようと考え、「子どもたちの遊べる場所」というテーマへつなりました。



### 3 市内公園の実態調査

まず、私たちは市内にある身近な公園について調査しました。

○自治体の管理で維持ができていない所

○整備されていない所

○遊具がなく空き地のみの所、など各公園によって実態が異なっていることが分かりました。

そもそも、光市は「冠山総合公園」という大きな公園があるにも関わらず、なぜ大きな公園がほしいという意見が多いのか？と疑問に思いました。

「冠山総合公園」は、遊具が充実していて、山の地形を活かして作られている公園です。私たちは、実際に足を運び調査を行いました。その結果、山の斜面に沿って遊具が設置されているため、坂の傾斜が急で足元が滑りやすい箇所が多いことから、下の子をベビーカーで連れての来園…、という親子連れには向かないように感じました。



**市内にある身近な公園の調査**

- ・自治体の人の当番で適切に維持管理が行われている所
- ・雑草だらけになっており、整備されていないと思われる所
- ・遊具がなく空地のみのところ

調査した公園：  
新町公園、宮ノ下公園、丸山公園、特林神社公園など

**実際に「冠山総合公園」に行って調査**

- ・坂の傾斜が急
- ・ドングリ等で滑りやすい箇所がある

走り回れる位の年齢の子どもには向いているが下の子をベビーカーで連れて来園...と言った方には向かない

### 4 「ひかり探Qサロン」で取組発表

それから私たちは探究を進める上で、「ひかり探Qサロン」に参加して、取組の経過を発表しました。令和5年度第2回「ひかり探Qサロン」では、「おっぱいまつり」の気づきやアンケート結果等について発表し、第3回「ひかり探Qサロン」では、冠山総合公園の調査報告をしました。

「ひかり探Qサロン」とは、光市の魅力や好きなこと、やってみたいことなどを様々な立場の人が集まって自由に語る会のことです。

そこで私たちは、参加者の皆さんからアドバイスや意見をいただきました。

○大きな公園があるのにないと言われる、そのギャップは何なのか。

○幅広い世代が集まるには、何が必要なのか。

○保護者のみなさんにとって「公園」は、どういう所なのか。など、新たな疑問が多く出て、今後の探究を進める手がかりになりました。

**令和5年度「ひかり探Qサロン」に参加・発表**

- ・令和5年度 第2回 探Qサロン おっぱいまつりの気づき、アンケートの結果等について発表
- ・令和5年度 第3回 探Qサロン 冠山総合公園の調査報告

**参加者の皆さんからのアドバイス**

- ・公園が市内にあるのにないと言われるギャップは？
- ・幅広い世代が集まるには何が必要か
- ・保護者の方々にとって「公園」とは？

新たな疑問が多く出て今後の探究を進める手がかりに

## 5 光市の公園について聞く

「ひかり探Qサロン」で出た新たな疑問をもとに、公園について詳しく知ろうを思い、光市役所を訪問し、都市政策課公園緑地係の方に公園についてお尋ねしました。尋ねた内容は、公園の遊具や清掃、新しい公園等についてです。すると、新しい公園については、市の都市公園条例の基準を満たしているため、「今は光市に新しい公園を作る予定はない」と言われました。

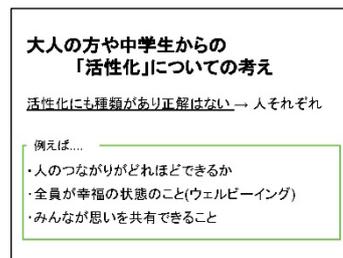


## 6 遊具のブラッシュアップを検討

その後、令和6年度第1回「ひかり探Qサロン」に参加して、これまでの取組の報告をしました。また、光市は新しい公園づくりの予定がないことから、現在、私たちの探究テーマが揺らいでいるため、探究のこれからの進め方について相談するとともに、私たちが進める探究の原点である街の「活性化」について、もう一度考え直しました。



参加者の皆さんからの「活性化」に対する考えを紹介すると、まず、活性化には種類があり、正解はないということです。活性化は、「色々な思いや個性が集まって実現するものであり、人それぞれである」ということが分かりました。例えば、



○人のつながりがどれほどできるか

○全員が幸福の状態であること

○みんなが思いを共有できること…、などです。人それぞれ意見が違うからこそ、活性化できるのだと思いました。

私たちは、サロンに参加して下さった方からのアドバイスを通して、「子育て世代が求めていることを探究」すれば、もっと深めていけると思いました。



そこで、私たちは、公園の「遊具のブラッシュアップ」を検討することにしました。その主なきっかけは、

○保護者の方々から「新しい遊具がほしい」という意見が多くある。

○さびている遊具が多い。ということです。

## 7 市外公園の実態調査

近隣で、子どもが多く集まる「周南フレンドパーク」へ行ってみました。スライドのように、ひとつの遊具が大きく、色とりどりで、すぐに遊びたくなるようなワクワクする構造でした。

平日にも関わらず親子連れが多く、子どもたちが思いっきり遊んでいました。



長いローラーコースターでは、「周南フレンドパーク」の遊具全体を一望することができ、とても楽しい遊具でした。

また、この公園は市民の方にアンケートをとって、市民と市が協働して作られています。



## 8 遊具ブラッシュアップの方向性

そこで、光市でも、今後、遊具等のブラッシュアップにあたっては、子どもたちにアンケートをとって遊具を選んでもらうとよいと思います。また、保護者の方にも意見を聞き、ニーズに合った遊具や環境を整備したり、年代に合わせた遊具を取り入れたりしようと思います。そして、ユニバーサルデザインやインクルーシブ遊具などに着目して、誰もが楽しく使えるような遊具の提案を行いたいと考えています。

そうすることによって、遊具を通して人が集まるきっかけにし、子どもたちの遊べる場所を充実させていくことができると思います。

これらのことから、光市に子どもが思いっきり遊べて、親も安心して子どもを遊ばせることができる公園があることによって、光市を子育てのしやすい環境のある街へと導くことができると考えます。

**公園のブラッシュアップ**

- ・子供たちにアンケートを取って遊具を選んでもらう
- ・保護者の方に意見を聞き、ニーズに合った遊具を取り入れていく
- ・ターゲットとする年代を決め、年代に合わせた遊具を取り入れる

遊具をひとが集まるきっかけに  
子供たちの遊べる場所を充実させていく

子どもが光市で思いっきり遊べて  
親も安心して子どもを遊ばせられる公園

↓

子育てのしやすい環境のある街

## 9 活動を振り返って

「ひかり探Qプロジェクト」の活動を通して、

○日常生活の中から気づきや疑問を発見して、解決に向けて自分から行動できるようになりました。

○新しい視点で物事を考えられるようになり、フィールドワークの大切さにも気づくことができました。

最後に、個人の将来に関して、

○子育てと福祉の分野をつなげ、たくさんの人を笑顔にしたいと思います。(長富)

○探究活動で学んだ疑問・調査・解決を活かし、人の役に立ちたいと思います。(神代)

私たちは、これまで探究を進めてきた中で、行きづまったり悩んだりすることも多かったですが、一度も止まったことはありません。私たちは、探究に終わりはないと考えています。これからも、様々なことに目を向け、気づき・考え、街のために、人のために行動していきたいと思います。

**探究を通して**

- ・日常生活の中から気づきや、疑問を発見
- ・課題・疑問の発見から、解決にむかって行動
- ・新しい視点で物事を考えられるようになった
- ・フィールドワークの大切さ

**自分達の将来に関して**

- ・子育てと福祉の分野をつなげる  
→探究で学んだことを生かして、たくさんの方の笑顔を生み出せるように自ら気づき、考え、行動していきたい (長富世奈)
- ・探究で学んだ疑問を発見→調査、解決に向かって行動するということが社会に出てからも活かす  
→人の役に立てるような人間になりたい(神代悠)